

# 一人親家庭「体験」に招待

子どもの健全育成に取り組み団体を支援する読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」に県内から鯖江市のNPO法人「フードバンクふくい」が選ばれた。一人親家庭や児童養護施設の子どもらをぶどう狩りや地引き網漁の体験に招待する費用に50万円が充てられる予定で、理事長の出雲晴夫さん(75)は「家庭の事情で他の子より経験が少ない子どもたちに楽しんでほしい」と力を込める。

出雲さんは2016年10月、一人親や貧困家庭の親子を対象に食料を支援する「フードバンクふくい」を設立した。これまで食料支援を行ってきたほか、楽しい経験も積んでほしいと、梨やぶどう狩り、地引き網漁体験を企画してインターネットで参加者を募

## 鯖江のNPO選出 読売光と愛支援事業

集。一人親家庭約40組や、児童養護施設の子ども約70人を招待してきた。

18日には、あわら市の梨園で梨狩りの無料体験を開き、母子家庭の親子9組が参加した。参加者は1時間、思い思いに梨をもぎってほおばった。坂井市から参加した小学1年生と6年生の子どもの母親は「子どもにやらせてあげたくてもできないことを体験させてもらって助かる」と話していた。

鯖江市にある同法人の事務局には、体験の感想がつづられたメールや絵付きのハガキが大切に保管されている。出雲さんは「少しずつ支援を続けていくことが、貧困の解決につながるはず」と話す。子どもの成長を見守りながら、「できる限り」力を尽くすつもりだ。



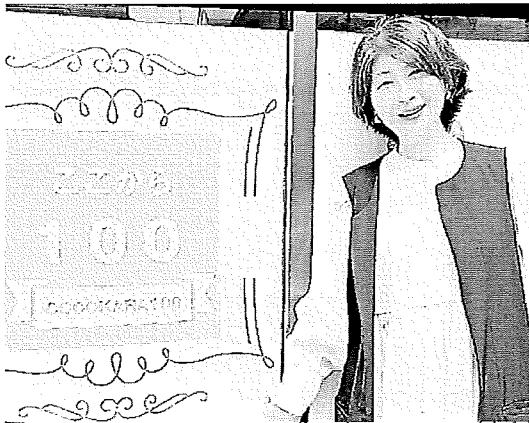
# 大阪 ひと語り お年寄り活躍の場提供

デザイナーやデザイナーなど介護が必要な高齢者向け施設はよくあるけれど、元気なお年寄りが気軽に集まれる場所は案外少ないんじゃないか。NPO法人「ここから100」代表理事の金山佳子さん(60)の活動は、こんな素朴な疑問から始まりました。

活動的なシニア世代が楽しく遊び遊べる場所を作りたいと、大阪市淀川区の実家をリフォームしました。4階建て住宅の1階部分で、両親が下着製造会社を営んでいた頃には、ミシンが何台も並んでいた場所です。10年以上前に会社をやめてからは、空き店舗のようになっていました。

NPO法人「ここから100」代表理事

金山 佳子さん 60



大阪市淀川区出身。化粧品会社の営業などを経て、一人娘が成人した54歳の時に「ここから100」を設立。整理収納アドバイザー、福祉住環境コーディネーターなどのスキルを生かし、各種セミナーも定期的に開催している。

018年4月のことでした。「ここから100歳まで、人生100点満点で」との思いを込めてコミュニティスペース「ここから100」と名付けました。△終活▽ではなく△生き活▽をと、パソコン、編み物、マージャン、100歳体操、昭和の歌をきく会など様々なプログラムを日替わりで用意し、「生前整理診断

生前整理の仕事は、ゴミ屋敷や孤独死、虐待などの社会問題と密接に絡み合っているケースが多く、弁護士、行政書士などと連携しながら活動することもありました。コロナ禍で貧困に陥落した

士らの専門知識を生かして家の片付けや相続、見守りなどの相談にも応じてきました。

人は、決まった年金が入る高齢者よりもむしろ30、40歳の働き盛りの方が深刻で、家を追い出された人の家探しや生活保護の申請を手伝うなど、役所との折衝に奔走する

「人生、嫌になった」と、年の瀬にアパートを引き払い、バック一つで区役所にやってきました。70歳の身寄りのない女性を泊めてあげたこともありました。本来、宿泊はお断りしているのですが、近くの保護施設が満室だったため、緊急避難的にコミュニティスペースで一緒に過ごしました。

月末の土曜の夜に開く「大人のバー」(飲み放題、食べ放題)は、月1回の開催日には、いつも80歳代の女性が数人、専門学校のボランティアとともに料理の腕ふるってくれます。食材を提供してくれる人も増え、支援の輪は次第に大きくなってきています。

お年寄りに赤ちゃんを抱っこしてもらったママたちがゆったりと話をしたり、お茶や食事を楽しんだり、テーブルを囲んで双方が笑顔になっていくのを見ているとうれしくなります。

ナ禍で対面実施が難しくなってきたのは、築50年の空き家をリノベーションしたコミュニティスペース「ここコミュ」(同区東三国)を拠点に加え、持ち帰り弁当での活動を続けてきた。

「ここコミュ」は、大阪市立東三国小学校の目の前という立地から子どもたちが立ち寄りやすく、月1回の活動日には「ハロウィンカレー」や「ちらし寿司と甘酒」など季節ごとの手作り弁当(大人500円、子ども無料)100食があったという間に完売。弁当を取りに来るのが困難な家庭には配達もしてきた。普段は、子どもの居場所としての役割も果たしており、外国人による英語教室なども実施している。

今年4月からは「ここから100」での子ども食堂も再開。約50食を用意し、幅広い年代の人たちが一緒に飲食することで、新たなつながりが生まれている。

事業団の助成金(10万円)は、ボランティアがそれぞれ持参していた調理器具のほか、キッチンカウンター、ジュースキサーなどの購入費に充てられている。

お年寄りに赤ちゃんを抱っこしてもらったママたちがゆったりと話をしたり、お茶や食事を楽しんだり、テーブルを囲んで双方が笑顔になっていくのを見ているとうれしくなります。

## 子ども食堂活動 育成支援事業に

光と愛の事業団

NPO法人「ここから100」の子ども食堂の活動は、読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」に選ばれた。

食堂での調理は、大阪保健福祉専門学校の学生や近隣のお年寄りらがボランティアで担当。「ここから100」(淀川区十八条)に集った人が飲食をともにするスタイルで運営してきた。コロ



七夕の飾り付けをした部屋で学生ボランティアらと一緒に食事を楽しむ子どもたち(今年7月、NPO法人「ここから100」提供)

母親たちを支える……。そんな理想の形が芽生えつつあることで、地域のお年寄りが生き生きと活躍できる場がさらに広がっていく未来を描けるようになってきました。今日はいったいどんな出会いが待っているか、日々、ワクワクしながら過ごしています。

(聞き手・渋谷聖都子)

## 買い物客にAED／「予防救急」職員講義

の3分の1程度が沈むくらい、片手で胸の中心を押し動きを実演。AEDの「いい」と呼びかけた。

を捜索した。調べに対し、黙秘しているという。発表では、深山容疑者は

秋季近畿地区高校野球大会府予選(9日)▽1回戦 大商大高15-0 泉大 陽19-7 大教大池田 西創 備19-0 公大工業高専 今 宮9-2 日 新

放題(3500円)には、高齢者だけでなく、外国人や家族連れなど多彩な顔ぶれが集まり、毎回、大にきわい。そんな参加者の声から誕生したのが、19年秋にスタートした子ども食堂です。

こと少なくありません。

した。

この活動を始めていなければ、知ることもなかった現実や、出会った人もなかった人たち。それまでの人生では考へもしなかった体験をするたびに、地域との結びつきの大切さを痛感させられました。

◇

月末の土曜の夜に開く「大人のバー」(飲み放題、食べ

門学校生のボランティアとともに料理の腕ふるって

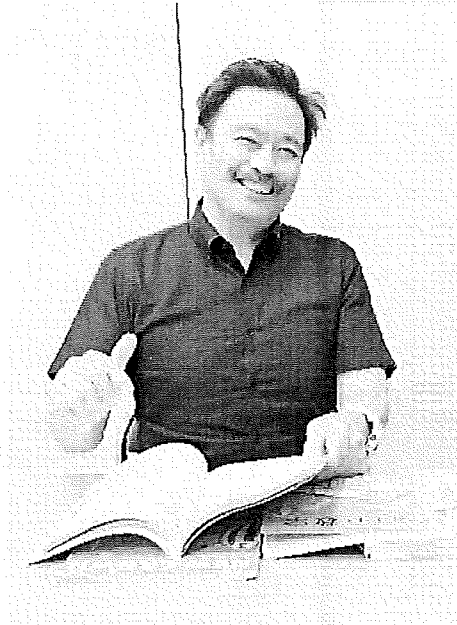
阪神二四

地 域

24

# 神戸の無料学習塾に助成

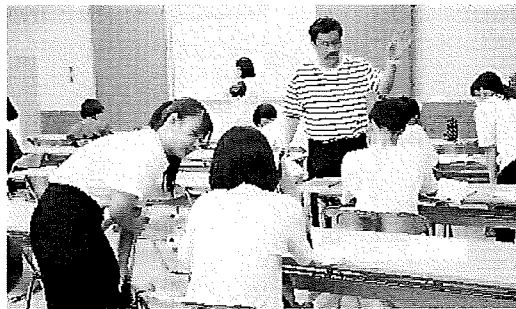
## 読売光と愛 困窮世帯など中学生対象



子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」に今年度、県内からはNPO法人「全国夜間中学ネット」が選ばれた。30万円の助成は、困窮世帯や不登校の中学生を対象にした無料学習塾の家賃

無料学習塾を運営する代表の宮崎さん（いずれも神戸市長田区で）

無料学習塾で中学生に勉強を教える大学生ら



に充てられる。

代表の宮崎仁史さん（62）は39年間、神戸市内の中学、高校で体育教員を務める

中、勉強についていけず、非行に走る生徒を目の当たりにした。「経済的理由で塾に通えない生徒が学べる場所を作りたい」と思い立ち、県立高で校長経験のある吉永一郎さん呼びかけ、2022年4月に無料の学習塾を始めた。

昨年度は月4〜14日、東灘区内の施設を借りて塾を開いた。今年度は長田区内にも開設し、英語や数学を中心に、学校の予習や高校入試の過去問対策なども行う。現在は市内の中学生30人が通い、指導には関西大や関西学院大の学生ボランティア

ティニア約15人があたる。「勉強だけでなく、学校での不安を話せる場所としても活用してもらえれば」と宮崎さん。生徒たちからは「学校の勉強についていけるようになった」「成績が伸びた」との声も届いているという。

今後の目標は、活動を全国に広げること。宮崎さんは「学力格差はますます広がっている。学校の授業だけで理解できるのは優秀な子だけ。経済的な理由で塾に行けない子どもたちの受け皿になりたい」と決意を述べた。

（取材協力）読売光と愛

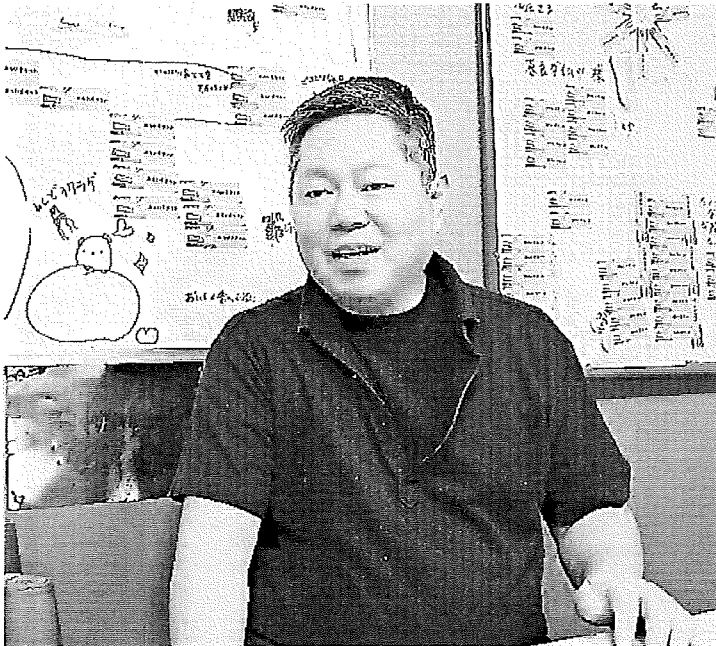
飛行場エリアに侵入した

# 「地域で支援広がって」

## 読売光と愛支援事業 上牧、檜原の子ども食堂

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する、読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」に今年度、県内から上牧町のNPO法人「Genki Future Dreams47」が選ばれた。代表の齊藤樹さん(52)は子ども食堂の運営を続けており、「地域で子どもへの支援の輪が広がってほしい」と語る。

(山田珠琳)



齊藤さんは同町と檜原市にある店舗「げんきカレー」で、子ども食堂を切り盛りする。店では大人は1食200円(税込み)で、中学3年までの子どもは100円(同)でカレーを購入できる。ただ、子どもは店内のホワイトボードに貼られた「みらいチケット」を使用すれば無料になる。

「子どもには不自由を感じてほしくない」と語る  
齊藤さん(檜原市で)

客からは「チケットを購入



入して次に来た時、子どもが使ったことがわかってうれしい」と好評な一方で、「店によっては本当に子どもに使われているのか怪しい」との声が寄せられた。寄付した店で何枚のチケットとして子どもが利用したかを可視化できたらと考え、今年1月からみらいチケットのアプリ開発を始めた。

これまでのチケットは飲食店で使われることがほとんどだったが、服や文具など子どもの成長に必要な物を販売する店と契約を結んでいく予定。年内にアプリ運用に関わるクラウドファンディング(CF)を開始し、リリースする予定だ。

齊藤さんは「使った相手から返事が来るような寄付の形を全国に広めたい。子どもからの『ありがとう、ごちそうさま』という声がどんどん届いたらうれしい」と意気込んでいる。

同事業団からの助成金50万円は、子ども食堂の運営に役立てるといふ。

## 沿線価値の向上目指す

### 生駒市と近鉄GHD協定

生駒市と近鉄グループホールディングス(GHD)

は、駅周辺のまちづくりやニュータウン再生などを進めるため、包括的連携協定を締結した。沿線の価値向上を目指していくと

いう。

両者は、これまでも沿線の住宅開発などで連携してきたが、市では加速する人口減少や少子高齢化などの課題に直面。連携協定で協力関係を深める。

# 若者の相談や居場所作り

## 光と愛の事業団 福岡のNPOに助成

読売光と愛の事業団が子どもや若者の健全な育成を目指す団体を助成する「子ども育成支援事業」に、県内からは今年度、福岡市中央区のNPO法人あいむが選ばれた。若者の相談に乗るなどの取り組みが評価された。

(南佳子)

NPO法人あいむは、2019年に前身の任意団体「ヤングケアラー」らにもが発足し、不登校児に特化した家庭教師事業を始め、華街・警固公園などを夜間に巡回。公園に集まる10〜20歳代の若者の相談に乗ったり、宿泊先の確保や生活を

### 「信頼関係築きたい」

保護の申請ができるよう関係機関に紹介したりしている。活動を持続させるため、今年4月に法人化した。

また、1〜2か月に1回の頻度でレンタルスペースを借りて、様々な事情を抱える若者に食事を提供するなどし、居場所を作っている。「行き場がない」「家出中」といった若者が、多い時には約20人参加。今回の助成金は、レンタルスペース使用料や人件費、若者の飲食代に充てる計画だ。

代表理事の藤野荘子さん(31)は「地域や大人の支援を受けられずに、孤立している若者が多い。悩みを打ち明けてもらうためにはコミュニケーションの継続が欠かせず、助成金を活用して信頼関係を築いていきたい」と話している。

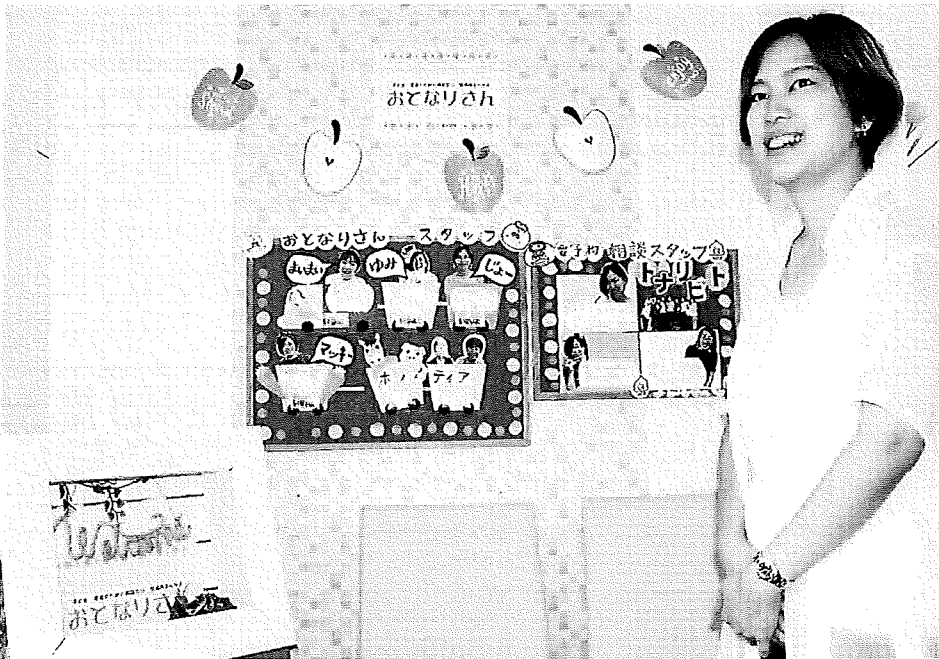
法人では、活動費の寄付を募っている。詳しくはウェブサイト(<https://aim-education.com/>)を



活動を支援するボランティアと打ち合わせる藤野さん

# 「トナリビト」助成団体に

## 光と愛の事業団 子どもも育成支援事業



「当たり前のことを当たり前にしたい」と話す山下さん

### 養護施設退所 若者らに住まい提供

読売光と愛の事業団が取り組む「子ども育成支援事業」の助成団体に、児童養護施設を退所した若者らに住まいを提供する熊本市のNPO法人「トナリビト」（山下祈恵代表）が選ばれた。シェアハウスで出す夕食代などに充てる。

同法人は2020年に設立。施設で暮らす子どもが退所後、自立できるようにフォローしているほか、貧困や虐待で親を頼れない若者向けにシェアハウスなどを運営している。

現在は6人の入居者が暮らしている。夕食は平日に提供しており、8人のボランティアスタッフが交代制で作る。管理人が入居者と顔を合わせ、食卓を囲んで食べるのが大切という。シェアハウスでは入居者の誕生日にはパーティーを開く。月に1度、外部の人

も交えて食事をともにする「オープンデー」と称した企画も実施している。

今回は助成金40万円が贈られる。山下代表は「路頭に迷った時、やり直せる場所を提供したい。特別なことをするわけではなく、当たり前のことをしていく」と語った。

### 酒気帯び運転で 陸自隊員を停職

#### 第8師団が処分

陸上自衛隊第8師団（熊本市北区）は29日、宇城市で酒気を帯びた状態で車を運転したとして、第8偵察隊の3等陸曹の20歳代男性を停職3か月の懲戒処分とした。依願退職する予定。発表によると、男性は昨年7月9日、宇城市の路上で酒気を帯びた状態で車を運転した。県警がコンビニ二店に立ち寄った男性に職務質問し、発覚したとい



霧島通信部 0995-55-1435  
鹿屋通信部 0994-42-3538  
薩摩川内通信部 0996-23-2070  
奄美通信部 0997-52-0334  
指宿通信部 0993-24-1245

購読は  
**Y 0120-4343-81**

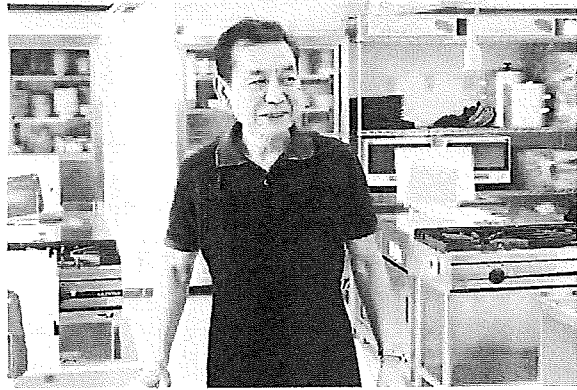
鹿児島読売会 099-214-5805  
Fax 214-5806

【広告】099-226-3682  
【折り込み】099-284-9053

読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」の助成団体に、県内からは鹿児島市の「たわわタウン谷山子ども食堂」が選ばれた。50万円の助成は、県産食材や環境に配慮した容器の購入などに充てられる。

## 子ども食堂に助成金

光と愛の事業団支援事業



たわわタウン谷山子ども食堂を運営する西さん

来、1年3か月ぶり。同観測所からの打ち上げは昨年10月12日のイプシロン6号機以来。  
肝付町によると、射場に

近いIHIスペースポート内之浦（旧宮原見学場）を当日午後1時から開放する予定。詳細は町のホームページで発表する。

同子ども食堂は2019年9月に発足。毎月第1土曜日、地域の子どもたちに無料で弁当を配っている。1回で用意する弁当は約150食。代表の西道春さん（64）は、妻の寿子さん（60）とともに数日前から野菜の下処理をこなす。調理には、準会員のほか、鹿児島南高や市社会福祉協議会のボランティアも参加。地元の企業や団体も食材を提供するなどしてサポートする。

このほか、管理栄養士の資格を持つ寿子さんが「子ども未来応援講座」として、栄養や歯の大切さなど食育

に関する講義を開催。参加した親子から「苦手の野菜が食べられた」「食材に興味を持つようになった」などの声が寄せられるという。

西さんは「食育を通じ、子どもたちが生涯にわたって健康な体で過ごせることが目標。食品ロス削減や正しいゴミの分別など地球環境についても考える活動にしたい」と話している。

## フェリー事故で改善報告を命令

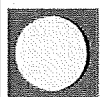
九州運輸局、瀬戸内町に

九州運輸局は瀬戸内町に対し、町営の「フェリーかけるま」で安全管理規定の違反が確認されたとして、再発防止などの改善措置を文書で報告するよう命令文書を出した。11日付。

発表によると、昨年12月3日、フェリーが同町の古仁屋港に接岸後、下船中の乗客が転倒し、負傷する事故が発生。同局が海上運送法に基づいて検査したところ、乗下船する客を誘導する作業員が配置されていないことなどが判明した。

【あすのこよみ】

（旧暦8月16日）大安



15.1 潮  
6.10 出  
18.4 入  
18.6 日  
6.44 月

満潮 干潮